GANEFOの思い出 PART 2　その後

吉田　稔（76歳）
（法政大学出身）

ガネフォの思い出文集のパート2（すなわち「改訂版」）を出すからとの連絡を受けたので、もう少し書き足してみようと思い、筆をとってみました。

村上(本郷)君と諸兄の協力で、初版は素晴らしい文集になり、懐かしく、楽しく読ませてもらいました。読み進むほどに往時のことが走馬灯のようによぎり、

平成13年11月の50年ぶりの再会でタイムスリップしたこともあって、心の何処かに仕舞い込み、すっかり忘れていた前向きな気持ちを取戻せた感じがしています。

今回は山本のゴンさんも寄稿されるとか、ゴンさんには当時随分とお世話になりながら、あまりお話をする機会が無かったこともあり、新宿のビヤホールで皆と飲んだとき以来、失礼していますが、村上(本郷)君からの連絡を得て、懐かしく思い出しています。

「ガネフォ」は、私にとって青春の最も特筆すべき体験で有り、以後の人生においても常に心の拠り所となった気がしています。昭和39年の12月末で東京での勤務先を退社。故郷の大阪に戻って、父が経営する鉄工所に入り後継者としての道をあゆみ始めたものの、東京オリンピック後の不況で行き詰まり独立する羽目に。全く畑違いの空調設備を手がけて以後50年、未だに現役で仕事やボランティアに振回されている始末です。

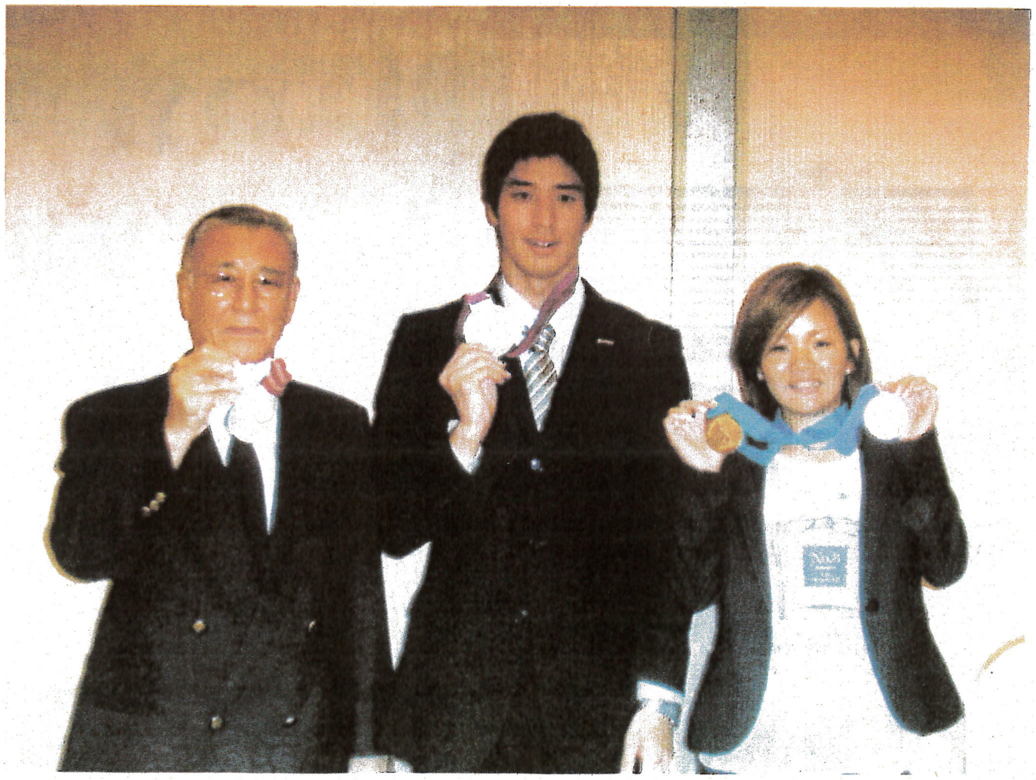
昭和54年に当時入会していた地元、河内長野市青年会議所で「カナヅチ君さようなら」を打出し、小学生を集めたスイミングスクールを主催したのがきっかけで、水泳連盟が設立され初代会長を受けて以来、体育協会の副理事長や、市の教育委員会からの委嘱で体育指導委員等体育関係のボランティア活動に駆り出されること２６年。ようやく６５歳定年でホッとしたのも束の間、市教委からの要請で体育協会とスポーツレクリエーション協会を統合したスポーツ振興会の設立に再度駆り出され、平成15年から4年がかりで設立に漕ぎ着けたところで、統括の役を仰せつかりました。今も引き続き事務局員12名、29団体、7千数百人の会員の束ねをさせられています。おまけに2年前から体育施設13箇所の指定管理を任されて、本職と振興会とで年中無休に近い状態が続いています。

お蔭で、風邪も引かず活動できるのは、若い時代に鍛えた体力と、粘り強く苦境に耐える訓練が身についていた賜物と思っています。

2月のソチ五輪、3月のパラリンピックを見ていて、スポーツには動きで人を感動させる力が有り、結果が良くも、悪くも全てをかけて挑む行動こそが大切であると、改めて感じた次第です。また健常者の羽生選手、障害者の狩野選手等、金メダルに輝く裏に潜む努力は逆境、苦境の中で耐え忍んで挑み続けた精神力の違いが結果に出た様な気がしています。この秋７７歳喜寿を迎えようとする今、ともすれば億劫になりがちな自分に、ガネフォに参加していた頃のファイトを思い出しつつ、またオリンピックに参加した選手たちの頑張りを我が身に重ねつつ、前向きに心を奮い立たせている今日です。

一昨年、我が河内長野市出身で同じプールで泳いでいた藤井拓郎選手が北京に次いでロンドンで４００ｍメドレーリレーのアンカーを泳ぎ、銀メダルを持って凱旋した際、振興会の役目柄市長への表敬訪問に立会い、その夜祝賀会を開いた際、河内長野でたった３人しか居ないメダリストで記念写真を撮りました。女性は聾者デフリンピックの銀メダリストの今井可奈選手で、数年前台湾の聾者世界大会でもメダルをとっています。

50年を経て初めて大勢に披露したガネフォのメダルは、偶然にも私の75歳の誕生日と重なり、記念すべき日となりました。
初版には大蝙蝠の写真を出しましたが、今回は昔と今の写真を披露し、半世紀に亘る水泳に関わる人生を振返って見ました。



私（吉田）　　　藤井拓郎選手　　　今井加奈選手